



DiGiCo SD Ver.1455

リリースノート

2021年6月

▼目次

| | |
|---|----|
| V1280 で発見されたバグ修正 | 3 |
| 1.1 Spice Rack の更新 (Quantum のみ) | 4 |
| 1.2 コントロールグループ AUX SEND の有効化 | 6 |
| 1.3 「Auto-Expand Exclude Off」 オプション | 7 |
| 1.4 マトリクス・アウトプットのコピー | 7 |
| 1.5 Aux Expanded Panel の「More / Less」 ボタン | 8 |
| 1.6 スナップショットリコールオプション中のフェーダーレスポンス | 8 |
| 1.7 「Save as Template」 オプション | 9 |
| 1.8 クロスポイントマトリクスのゲイン値 | 9 |
| 1.9 マスター画面をクリアする | 10 |
| 1.10 DQ-Rack (DMI スロット備えたコンソール向け) | 10 |
| 1.11 MQ-Rack | 11 |
| 1.12 その他の新機能 | 12 |

V1280 で発見されたバグ修正

- Aux 1 がステレオの状態でもノードセーフが適用されている場合、Access Violation (アクセス違反) が発生することがある。
- ソケットタイプの変更に後 4REA4 IO ポートへの入力のルーティングを解除または再ルーティングすると、オーディオが停止する可能性がある。
- シアターバージョン・ソフトウェアで、セッションストラクチャページから入力チャンネルの順番を変更した場合、順番を変更したチャンネルの後に新しくプレイヤーを作成できなくなることがある。
- OptocoreSend / Rcv ポートを追加して再度マッピングすると、Copy Audio が誤ったルーティングになることがある。
- DMI MADI-C がオレンジボックスの DMI スロットに挿入されている場合、コンソールがその DMI MADI-C カードを検出できない。
- SD Dynamics 2 が Compressor に設定されて、チャンネルがモノラルからステレオに変更されると、GR メーターがフリーズする。
- L-ISA グループのアサインで Access Violation が発生する可能性がある。
- Quantum3 の「Switch Layer」マクロを修正。
- SD7 / Quantum7 のローカル入力の +48V ファンタム電源の ON/OFF がセッションのロード時に正しくリコールされない。
- Options の Meters タブで Meter Bridge を pre-trim に設定すると、AUDIO IO ページで関連ポートを閲覧したときに、左側のメーターが post-trim に戻ってしまう。
- Quatum コンソールでノードプロセッシングが有効な状態のセッションファイルを SD シリーズコンソールのセッションへ変換した後に Access Violation が発生する可能性があります。
- DMI カードが使用されたセッションファイルを DMI カードが未使用なコンソールのファイルへ変換して使用すると、Audio IO ページでその DMI カードを選択したときにエラーが発生することがある。
- SD Dynamics 2 コンプレッサーのサイドチェインがセッションロード後にレイテンシーが加算されていた。
- マルチの一部を構成していたチャンネルをセッションストラクチャページで削除すると Access Violation を引き起こすことがある。

1.1 Spice Rack の更新 (Quantum のみ)

Spice Rack は、Quantum エンジン用の新しいオーディオプロセッシングラックで、マルチバンド・コンプレッサー「Chilli 6」と合わせてリリースされました。今回のアップデートで「Naga6」と呼ばれる 6 バンドダイナミック EQ が追加されました。

Spice Rack にアクセスするには、Master Screen> **Processors**、**SpiceRack** の順にタッチします。

Spice Rack プロセッサがインサートされたチャンネルを**ソロ**にすると、SpiceRack ウィンドウと関連したスロットがマスタースクリーンに表示されます。

現在の Spice Rack プロセッサのセーフ設定を ON

「presets」ウィンドウを表示

機器のルーティング先のチャンネルとインサート

ユーザーインタラクションのタイプ

2 台の Chilli 6 ユニートをリンク

Spice Rack 機器タイプを選択

処理信号の現在の周波数特性

コンプレッサーが動作する dB 範囲

サイドチェインソースとタイプを設定

Spice Rack スロットに現在アサインされているユニットのリスト

インサートされたユニットにはチャンネル名を表示

グローバルな Solo Mode を設定

Solo ソースを設定

Naga 6 にアクセスするには Chilli 6 ユニートを**選択**し「type」ボタンを押します。

現在の Spice Rack プロセッサのセーフ設定を ON

「presets」ウィンドウを表示

機器のルーティング先のチャンネルとインサート

ユーザーインタラクションのタイプ

2 台の Naga 6 ユニートをリンク

Spice Rack 機器タイプを選択

処理信号の現在の周波数特性

コンプレッサーが動作する dB 範囲

サイドチェインのルートを選択

サイドチェインソースとタイプを設定

Spice Rack スロットの中にある現在のユニットのリスト

インサートされたユニットにはチャンネル名を表示

グローバルな Solo Mode を設定

Solo ソースを設定

Chilli 6 は、クロスオーバー・スロープを共有した 4 つのフラットトップフィルター・タイプのバンドと 2 つのパラメトリック・バンドを備えたクラシックなマルチバンド・コンプレッサーです。Naga 6 は、6 つのパラメトリック・バンドを備えたマルチバンドダイナミックEQ で、フラットトップフィルターはありません。Chilli 6、Naga 6 どちらも、設定したスレッシュホールドを超えた信号にコンプレッションまたはエクспанションを加えることで周波数ごとにダイナミックコントロールが可能です。

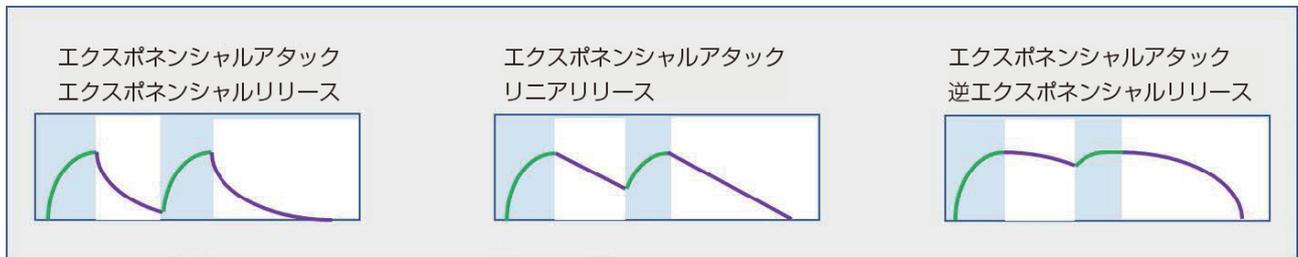
ステレオチャンネルを Spice Rack にルーティングした場合、2 つの連続するスロットが自動的にステレオに設定され、ギャング（リンク）されます。設定をモノに戻してそれぞれ別のパラメーターを設定することもできます。

ユニットをステレオ設定するには、ペアにするユニットを同じタイプ（Chilli6 または Naga6）に設定する必要があります。

ステレオペアにするユニットは隣接するユニットである必要があります（1 と 2、3 と 4、5 と 6 など）、2 と 3、4 と 5 などのペアではステレオにすることができないことに注意してください。

緑のラインは処理信号の周波数特性を表し、加えられたコンプレッションまたはエクспанションをリアルタイムに反映します。

Release Shape（リリースシェイプ）は、エクスポネンシャル（0）からリニア（0.5）、逆エクスポネンシャル（1）までのカーブタイプによってリリース特性を変える場合に使用します。逆エクスポネンシャルは、減衰時間全体を維持しながら信号のピーク間の鋭い減衰を抑える新機能です。



Dyn Angle（ダイナミックアングル）は、信号がスレッシュホールドをどの程度超えたら EQ を完全に加えるかに影響します。レシオに似ていますが、スレッシュホールド付近でスムーズなトランジェントが得られます。高めのレシオに相当する 1（デフォルト）から低めのレシオに相当する 0 までの任意のポイントに設定できます。また、ニーと同様に、ダイナミックアングルを 1 未満の値に設定した場合、スレッシュホールド未満の信号にゲインリダクションが加えられますが、常に緩やかなカーブが維持されます。

Parametric (Bell) Filters（パラメトリックフィルター）。Naga6 の 6 つの帯域と Chilli6 の 2 つの帯域（P1 と P2）は、中心周波数範囲が 20Hz ~ 20kHz、Q が 0.35 ~ 60 のパラメトリック EQ タイプのフィルターです。その帯域が「Split」モードに設定されている場合、これらの帯域は独自の独立したフラットトップ・フィルタバンドを有し、これはサイドチェイン・ダイナミックコントロール上のみで使用でき、その帯域をソロした場合、アイソレーションフィルターとして使用できます。これらの帯域の中心周波数は、それらの帯域のメインのパラメトリックフィルターの周波数コントロールに従います。また、幅はメインの「Q」コントロールに合わせて調整されます。帯域を「Wide」に設定すると、入力信号から直接フィードされるサイドチェインのようなダイナミックサイドチェインコントロールにフラットトップフィルターをバイパスします。これらのフィルターは、ソロ時にはアイソレーション・フィルターとして機能します。

Flat top filters（フラットトップフィルター）。Chilli 6 の場合のみ、バンド 1 ~ 4 には 3 つのクロスオーバーフィルターがあり、任意のスペクトル上にある帯域へ配置されます。「global Crossover Slope」は 2 次（0）—4 次（1）間のフィルター・スロープを調整します。帯域が「Split」モードに設定されている場合、サイドチェインコントロール信号はフィルターの後に供給され、帯域内のオーディオにのみ応答しますが、「Wide」モードに設定した場合は、サイドチェイン信号は入力から直接供給され、スペクトル全体に応答します。ソロ信号は、「Split」 / 「Wide」状態に関係なく、常にフィルターを通過します。

Gain（ゲイン）は各バンドのレベル調整として機能します。

Range (レンジ) は、特定のバンドに加えるコンプレッションまたはエクspansionの限度を決定します。ONにした場合、グラフィック表示上の現在のゲインの上 (エクspansion) または下 (コンプレッション) に青いハイライトでレンジが表示されます。

External Side Chain (外部サイドチェーン) は、「Side Chain Source Route」を押すと、外部ソースを選択し、サイドチェーンとして使用することができます。各帯域は、「Int」/「Ext」ボタンを押して、この1つの信号をサイドチェーンソースとして使用するように設定できます。Extを使用していない帯域は、自身(入力信号)をソースとして使用します。外部ルートが設定されていない場合、「Ext」は選択できません。

Soloing Bands は、帯域の「Listen」ボタンを押すことで、一度に1つの帯域だけをソロにすることができます。リッスンソースを「band」に設定すると、ソロはダイナミクスでコントロールされるバンドフィルターを通る入力信号を監視し、ノッチフィルター (ベルカット) を使用すると、影響を受ける信号領域が分離されるため、パラメトリックフィルターバンドの場合、信号はフラットトップフィルターから切り離されたサイドチェーンを通ります。リッスンソースが「S / C Listen」に設定されている場合、外部 S / C 信号 (外部に設定されている場合) または入力信号は、独自のフラットトップサイドチェーンフィルターを通過します。このフィルターは、ダイナミクスを制御しているソースを監視しているため、ダイナミクスによってコントロールされません。

Listen / Solo Destination. ソロ帯域は、Spice Rack を通過する通常の信号を変更することなく、「Solo 1」バス、「Solo2」バス、またはその両方に送信できます。「Destructive」ボタンを押すと、ソロ帯域はスパイスラックの通常の出力をソロ信号に置き換えることができます。これらのコントロールは、スパイスラック内のすべてのユニットに対してグローバルです。

Attack と **Release** は、コンプレッションやエクspansionが信号に作用する速度を決定します。

Threshold (スレッシュホールド) は、コンプレッションやエクspansionを加えるポイントを設定します。

全体の **Output** (出力) フェーダーがあり、エフェクト後のゲイン差を補ったり減らしたりするために使用できます。

1.2 コントロールグループ AUX SEND の有効化

コントロールグループのチャンネルストリップに「aux sends」ボタンが新たに追加されました。CG コントロール AuxSend を有効にしたときに、個々の CG がその影響を受けるか否かを切り替えることができます。

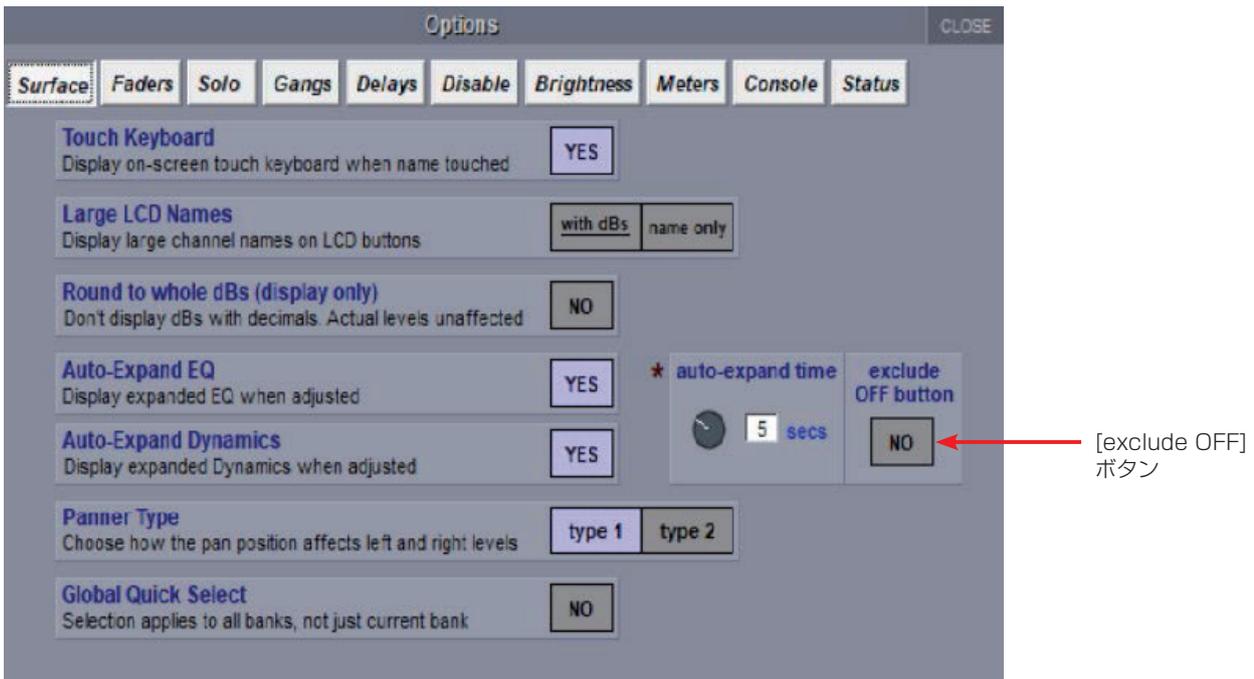
「Control Group」コマンドタイプの「Setup」>「Macros」に「Aux Send Enable」マクロが新たに追加されました。



注意： [Options]> [Faders] の [CG Fader Controls Aux Send] グローバル設定は削除されました。

1.3 「Auto-Expand Exclude Off」 オプション

[Options] > [Surface] タブに、[exclude OFF] ボタンと呼ばれる新しいオプションが追加されました。これにより、ダイナミクスやEQがオフになっても auto-expanding（自動展開）されないようになりました。



1.4 マトリクス・アウトプットのコピー

「Matrix Setup」設定パネルのマトリクス出力チャンネルに、新たに「Copy Setting」機能が追加されました。「copy settings」ボタンを押すとマトリクス出力のリストが表示され、そのリストから選択するとミックス設定がコピーされます。デフォルト状態では「copy settings」のリストの先頭に **Odb** および **Off** 設定が含まれています。



1.5 Aux Expanded Panel の「More / Less」 ボタン

Aux 拡張パネルに「More/Less」ボタンが追加されました。パネルサイズが拡大され、セッションに応じて最大 5 列の Aux send が表示されるようになりました。

「More/Less」ボタン
パネルサイズを展開すると、最大 5 列
の Aux send を表示



注意： Aux 拡張パネルで MORE ボタンを選択したときに表示される Aux の行数はそのコンソールのアサインラロータリーの数によって変わります。

1.6 スナップショットリコールオプション中のフェーダーレスポンス

「Options」>「Faders」タブに、「Fader Response During Snapshot Recall」オプションが追加されました。このオプションには「Standard」設定と「Fast」設定があります。「Fast」に設定すると、スナップショットやキューをリコールしたときに、コンソールがフェーダーのレスポンスディレイ（応答遅延）を回避します。



「Fast」に設定すると、スナップショットやキューをリコールしたときに、コンソールがフェーダーのレスポンスディレイ（応答遅延）を回避します。

1.7 「Save as Template」 オプション

マスター画面のメインメニューにある **Save as new file** パネルに「as template」ボタンが追加されました。これにより、セッション全体を一つのテンプレートとして保存することができます。セッションテンプレートとして保存されたファイルはメインメニューの「Files」のドロップダウンにある「template」フォルダに格納されます。テンプレートセッションをロード後、そのセッションを「save session」ボタンまたはマクロを使用して保存すると、保存されたセッションファイルはテンプレートフォルダではなく、セッションフォルダに格納されます。



1.8 クロスポイントマトリクスのゲイン値

マスター画面の「matrix」ボタンからアクセスできるクロスポイントマトリクスが更新され、パネルの下部にあるテキストボックスにゲイン値を入力すると、デフォルトでマイナス値が入力されるようになりました。また、さらに下記2つの新しいオプションが追加されました。

Abs： キーボードまたは画面上のテンキーを使用してボックスに数値を入力すると、選択したすべての「ノブ」のゲインがその値に設定されます。

Rel： 選択されたすべての「ノブ」のレベルをテキストボックスに入力された値分だけ増 / 減させます。



1.9 マスター画面をクリアする

新しいマクロ「Clear Master Screen」が System コマンドの下に追加されました。このマクロによって、マスター画面のメニューボタンを使用してユーザーが開くことができるすべてのパネル（スナップショット / Cue パネルを除く）を閉じることができます。このマクロと同じ機能には system > clear master screen からアクセスできます。

1.10 DQ-Rack (DMI スロット備えたコンソール向け)

DQ-Rack の接続と使用には、次の要件があることに注意してください。

Dante 64 @ 96DMI カードのファームウェアを以下のようにアップデートします。

1. アップデートパッケージの DMIDante 64 @ 96 ファームウェアアップデート (v103)。
2. Dante Updater で更新できる DMI カードの Dante ファームウェアアップデート (4.0.20)。

DQ-Rack をコンソールに挿入された Dante 64@96 DMI カードに接続し、Audinate 社の「Dante Controller」ソフトウェアでルーティングすると、DQ-Rack のソケットパラメーターは、他の DiGiCo I/O ラックと同様にコントロールできます。

コンソールに DMIDante 64 @ 96 カードが挿入されている場合、Dante との間で 64 チャンネルの I/O にアクセスできます。DQ-Rack は、アナログ入力× 48 とアナログ出力× 24 のアクセスが可能です。

DQ-Rack の AES/EBU 出力が有効な場合、これらの出力には Dante チャンネルの 49 ~ 56 番 を使用してアクセスします。

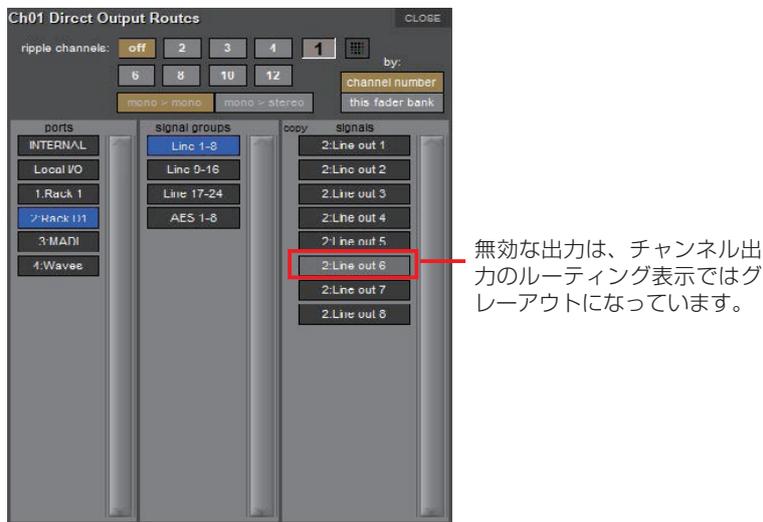


1.11 MQ-Rack

MQ-Rack がコンソールの MADI または DMI MADI カードに接続されている場合、MQ-Rack のソケットパラメータは他の DiGiCo I/O ラックと同様にコントロールできます。MQ-Rack は、アナログ入力× 48 とアナログ出力× 24 へのアクセスが可能です。

MQ-Rack のアナログ出力ソケット 6 番、12 番、18 番、および 24 番は AES/EBU 出力への切り替えが可能です。出力ソケットの AES/EBU 出力への切り替えは [Setup]> [Audio I / O]にある [Audio I / O]パネルで [AES/EBU 出力]で変更できます。アナログソケットを AES/EBU 出力へ切り替えると、2つの AES/EBU 出力にアクセスできるようになります。ソケットタイプを変更するともう一方のタイプは無効状態になります。

無効状態のソケットに対してオーディオ信号のルーティングができますが、ソケットタイプが有効になるまでオーディオ信号は渡されません。



注意： アナログ出力 / AES/EBU デジタル出力の切り替えは、Quantum シリーズコンソールの Audio I / O パネルからのみ切り替え可能であることを注意してください。

SD シリーズコンソールで MQ-Rack を使用する場合、変更はラック本体で行う必要があり、ラック側の変更内容はコンソール側の Audio I/O パネルの表示には反映されません。

1.12 その他の新機能

- Quantum225 コンソールが完全にサポートされるようになりました。
- DMI カードエラーのシステムメッセージが DMI スロットを識別するようになりました。
- シアターソフトウェアのプレイヤーセットの数が 32 に増えました。